

調査結果速報

平成15年12月15日

総務省実験（10月17日品川区）との相違

	総務省	長野県
CS端末	×	○
CSサーバ	不明	○
住基ネット・CS間のFW	×	実験せず
CS・庁内LAN間のFW	×	通過の仕組み 発見

総務省（井上市町村課長の発言）

（8月5日公開討論会）

- 市町村のコミュニケーションサーバやその内側のファイアウォール、これは指定情報処理機関が24時間監視しているものですが、そこから内側で不正アクセスがないように、指定情報処理機関が十分監視している。
- 市町村設置のファイアウォールも、指定情報処理機関の工事であれば脆弱性はない。

24時間監視の実態

- ・ C Sサーバー・ C S 端末
→管理者権限取得（11月25日）
- ・ C S・庁内LAN間のFW
→実験により通過の方法発見（11月25日）

地方自治情報センターから**通報なし**

- ・ 住基ネット・ C S 間の F W
→11月28日にプラグの抜き差し

地方自治情報センターから**通報あり**

何がわかったのか？

- **CSサーバ、既存住基サーバデータの改ざんが可能である。**
- **FWを通過するのは、どのようなデータかわかった。**
- **改ざんしたデータは、日本中どこの自治体でも正当なデータとして扱われる。**
- **CSサーバへのアクセスを地方自治情報センターは検知できなかった。**

何が起こりえるのか？

- 選挙人名簿に登載されていないことにして、選挙をできなくさせる。
- 国民年金データを改ざんして転居させる。
- 介護保険や児童手当の受給データを改ざんして、本来の受給者をもらえなくさせる。
- 税金の滞納データを消去し、そのデータを持たせて、勝手に転出させる。